

佐賀県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体
 特定非営利活動法人 被害者支援ネットワーク佐賀VOISS会報



Vol.13-3

No.41

2013. 3.31

VOISS・ボイスとは、Voice of Isolated Survivor, Supportの頭文字を取ったものです。
 孤立した被害者（自己の尊厳を回復しようとしているサバイバー）の声を尊重していきたいとする、会の原点を表した愛称です。

弁護士による被害者支援



被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS

理事 櫻田 康 則



現在、佐賀県弁護士会の犯罪被害者支援委員会の委員長、九州弁護士会連合会の犯罪被害者の支援に関する連絡協議会の委員、そして、佐賀 VOISS の理事をさせて頂いております弁護士の櫻田康則です。

弁護士といえば、被疑者、被告人の刑事弁護人という印象が強く、被害者支援活動を弁護士が行なうというイメージは、一般的にはあまりないと思います。

私自身、弁護士業務において、被害者支援活動よりも刑事弁護人として活動する機会が多く、佐賀県の他の弁護士も同様であると思います。

そもそも弁護士による犯罪被害者支援活動の歴史は新しく、日本弁護士連合会では、平成 11 年に犯罪被害者支援委員会が発足し、佐賀県弁護士会では、平成 12 年に犯罪被害者支援委員会がようやく発足しておりますので、まだ 10 年程の歴史しかありません。

ただ、平成 20 年に、被害者参加制度、損害賠償命令制度が施行されたこともあり、弁護士が関与する被害者支援活動の領域が広がり、民事訴訟における損害賠償請求が中心であった以前と比較すれば、より多くの弁護士が被害者支援活動を行なうようになったと思います。

この被害者参加制度については、現金預金等の合計額が 150 万円未満という資力条件のもと、国費により被害者参加人のための弁護士を法テラスから選定してもらうことができますし、損害賠償命令制度についても一定の資力基準に達しないなどの条件のもと、法テラスによる民事扶助制度（弁護士費用を立替払いしてもらい、利用された方が法テラスに毎月分割で償還していく制度、所定の条件で償還猶予・免除の制度もあり）を利用することができます。

しかし、この被害者参加制度や損害賠償命令制度の利用数は現状では少なく、各制度の広報とともに、被害者支援活動を弁護士が行なうということ自体の広報もまだまだ足りないと感じております。

佐賀県弁護士会は、来年度以降も、他の関係機関、関係団体と連携しながら少しでも被害者の支援につながりますよう活動していきますので、よろしくお願い致します。

九州ブロック研修会報告 (長崎市にて)

平成 25 年 3 月 9 日～10 日、認定特定非営利活動法人全国被害者支援ネットワーク主催による、平成 24 年度第 2 回 全国被害者支援ネットワーク九州ブロック研修会が、長崎市にて開催されました。今回の研修は、経験年数 1 年未満の方から約 9 年のベテランの方まで参加されており、各県の直接支援員や相談員が熱心に研修を受講されていました。

まず、全国被害者支援ネットワーク理事の芦塚増美さんや長崎犯罪被害者支援センター理事長の塩飽志郎さんの挨拶があり、全国被害者支援ネットワーク理事の関根剛さんからは、本研修が直接支援員から相談員を養成するための研修であるとお話がありました。講義の内容については、ロールプレイや、事例をめぐる意見交換などがあり、各県の直接支援員や相談員が活発に発言され、その真摯な姿に刺激を受けました。平成 26 年度は、佐賀 VOISS が開催県となって九州ブロック研修会を行なう予定です。

実施日	時間	研修内容	担当
3 月 9 日 (土曜日)	① 13:30～15:10	相談技術ロールプレイ	宮崎被害者支援センター 大野 さおり かごしま犯罪被害者支援センター 松田 千恵美 くまもと被害者支援センター 高橋 久代
	② 15:20～16:20	犯罪被害者を取り巻く情勢	DV 防止ながさき 理事長 中田 慶子
	③ 16:30～18:10	育成の技術	全国ネットワーク理事 関根 剛
3 月 10 日 (日曜日)	① 9:00～10:40	事例検討	全国ネットワーク理事 弁護士 芦塚 増美
	② 10:45～12:15	最新の関連法律、制度及び情報を知る	飯田直樹法律事務所、弁護士 飯田 直樹
	③ 13:15～14:45	心理教育・ロールプレイ	長崎犯罪被害者支援センター副理事長 臨床心理士 前田 和明

飲酒運転撲滅ステッカー贈呈



佐賀新聞 (3 月 6 日) に掲載されました。

3 月 4 日、飲酒運転による交通事故で娘さんを亡くした大庭茂彌さんが、飲酒運転防止を呼び掛けるステッカーを唐津市厳木中学校の 3 年生に贈りました。

大庭さんは、「命の大切さを伝える教室」で厳木中学校にて昨夏講演されました。

今回 3 年後には運転免許を取得する 3 年生に、飲酒運転の悲惨さや、遺族の想いを思い出してほしいとステッカーをプレゼント。

生徒代表は「飲酒運転は被害者だけでなく、加害者やその家族の人生も狂わせる。目に付くところに貼って家族や周囲の人にも伝えたい」と話していました。

内閣府主催の性犯罪被害者支援体制整備についての研修会が開かれました

内閣府主催「平成24年度男女共同参画センター等における性犯罪被害者支援体制整備促進事業」研修プログラムが1月31日から2月1日の2日間にわたり、「グランデはがくれ」において開催されました。

研修プログラムの内容は、性犯罪被害者への法的・心的支援、刑事手続や産婦人科での取り組み、と多岐にわたり大変興味深いものでした。

内閣府男女共同参画局ではすべての個人が喜びも責任も分かち合い、その能力・個性を十分発揮することが出来る社会をめざし、男女共同参画基本計画の策定をしています。中でも女性に対する暴力は重大な人権侵害であり、その根絶に向けた取り組みは克服すべき重要な課題です。その取り組みは多方面でなされ、性犯罪被害者の精神的・身体的損害の回復・防止への取り組みにおいては、ワンストップ支援センターの設置促進が挙げられます。2010年4月には大阪にSACHICO、2012年7月にさがmiraiが設立され、今後も北海道、沖縄、福岡に設立予定です。

さがmiraiでは県立病院好生館が核となることで、医療の枠組みの活用をそのまま活かす支援が特徴です。早期の対応が回復に影響する性犯罪被害への支援として注目を浴びています。

参加した相談員の感想

今回の研修で性暴力被害者支援体制構築として、大阪SACHICOのスタッフ谷田寿美江さんから「当事者の視点に立った支援とは」について講義を受け、性暴力がどれほど“人間としての尊厳を脅かす”行為で人権侵害だということを再認識しました。支援においては性暴力被害に関する「神話」に惑わされず、二次被害が起きないように、当事者の自己決定の過程を支えていくことの大切さを学びました。

また、レジリエンスの中島幸子さんは「性暴力：その後を生きる」として性暴力がもたらす影響と回復の困難さを被害当事者として話されました。“人としての尊厳”をも失うような屈辱的な性犯罪がない社会であってほしいと思いました。

1日目は、被害の潜在化が大きな問題として話されていました。この潜在化は、相談機関が知られていないこと、そして「神話」が当たり前に存在しているためにあるようです。また、初期対応の違いが、その後の回復に影響するのではないかという話もありました。

研修を受け、早い段階で被害に遭われた方にお会いする機会を持てるようになったことを無駄にしないよう、丁寧な支援をしていきたいと思いました。そして、それを今後の被害の防止につながるものになりたいとも思います。

平成 24 年度 被害者支援相談件数報告

平成 25 年 3 月 30 日現在

活動内容		殺人	傷害	性犯罪	DV	児童虐待	その他	計
活 相 動 談	電話相談	17	16	52	158	20	271	534
	電子メール相談	15	0	2	19	3	8	47
	面接相談	3	0	3	4	2	4	16
小計		35	16	57	181	25	283	597
直 接 支 援	裁判傍聴付添い	0	0	5	2	0	0	7
	他機関付添い	0	0	1	1	0	0	2
	病院付添い	0	0	1	0	0	0	1
	自助グループ支援	6	0	0	0	0	0	6
	その他	3	0	16	14	0	0	33
小計		9	0	23	17	0	0	49
合計		44	16	80	198	25	283	646

出前講座

被害者の声に耳を傾け、コミュニティでできる被害者支援について、一緒に考えていきたいとの思いで講座を開催しています。また講演内容を冊子にし、県内中・高校、公民館などに配布しています。

第 6 回 2 月 15 日（金） 吉野ヶ里町（吉野ヶ里中央公民館）

犯罪被害者家族のお話（ご長男を集団暴行で亡くされた遺族）

ひょうご被害者支援センター 理事 高松 由美子さん

「犯罪被害者支援活動の実際 ～みんなで支え合うために～」

広島被害者支援センター 支援総括責任者 信井 京子さん

命の大切さを学ぶ教室

各学校で被害者・遺族の方に講演をしていただいています。生徒たちが『命』について考える時間になっています。講演内容、生徒の感想文は冊子にし、配布しています。

第 7 回 12 月 4 日（火） 佐賀学園高校

第 8 回 12 月 10 日（月） 佐賀市立東与賀中学校

第 9 回 12 月 19 日（水） 佐賀県立有田工業高校

第 10 回 2 月 20 日（水） 佐賀県立厳木高校



犯罪被害者等早期援助団体への道のり

2012年11月16日犯罪被害者支援フォーラム会場において、指定書をいただくことが出来ました。思い起こせば、2009年5月の総会において、犯罪被害者等早期援助団体を目指す承認を得、事務局は、作業を始めることとなりました。先ず、佐賀県庁（県民ホール）において「生命のメッセージ展」を開催し大きな反響を得ました。開催をきっかけに、県、県警、佐賀市の協力を得ながら事務所探しが始まり、2010年3月、現在の佐賀県中部保健福祉事務所の敷地内に入居が決まり、初めて看板を掲げ住所を明示することになり、指定の要件である施設が決定しました。

2010年5月総会では定款を変更し、事業規程や情報管理規程などの必要な各規程について、他県指定センターの規程を参考しながら申請書類の整備に着手しました。また、経済的基盤の整備として、支援自動販売機の設置推進活動を行い、7月に佐賀トヨペットに1号機を設置することができました。広報啓発の整備としては、市町での出前講座や学校での命の教室を開催したり、VOISS 広告のバスを運行したり、知名度向上に努めました。人的基盤整備として、事務局員や相談員の体制づくり、加えて養成講座を開講し、ボランティアや直接支援員の育成も行いました。このような基盤整備の結果、各規程（16）を制定し、支援自動販売機（32機）も増加し、また、犯罪被害相談員（10名）直接支援員（11名）と支援の体制も整い指定を受けることができました。

これまでに、多くの皆様のご指導ご支援を得ることにより、今日に至りましたことを感謝申し上げます。これからも、被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS の（Voice Of Isolated Survivor, Support）を原点に活動してまいります。

事務局長 島崎敏江

2000年4月に九州で二番目の被害者支援民間組織の VOISS が誕生してから、12年目によりやく、早期援助団体の指定を受けることが出来ました。カタツムリのような歩みを心配してくださった方、かえって頼もしいと応援してくださった方、VOISS の多岐にわたる活動に携わってくださった皆様に、改めて感謝申し上げます。とりわけ、早期援助団体の基盤整備のために事務局長を引き受けてくださり、中核となり働いて下さった島崎さんに、厚くお礼申し上げます。

副理事長 田口香津子

広報活動を振り返って

主な活動はサポーター養成講座、被害者支援出前講座、命の大切さを学ぶ教室、一般広報でした。

サポーター養成講座は一般を対象に初級コースと継続コースに分かれ、20講座、26項目の講義内容で行われました。熱心な受講者が多く、初級コースを終了しだい支援に参加したいと志願される方も多かったようです。今後は被害者支援の難しさや重要性をさらに広めることが課題です。

被害者支援出前講座では被害者家族などのお話と、支援者の立場からのお話の2部構成で行われました。佐賀県下の市町で一般を対象に被害者支援に関心のある方々の受講が多かったようです。しかし、開催地区や時期によってばらつきがありました。今後は農繁期の開催は避けた方がよく、後援となる市町と協議してその把握に努めることが課題として挙がりました。

命の大切さを学ぶ教室は応募のあった県内の中学校・高校を選定し10校で開催しました。中には授業参観の一環として保護者にも呼びかけて聴講する学校もあり、「命の大切さ」に理解を深めていただけたと思います。

VOISS 設立の理念や当初からの地道な活動がみとめられ、平成24年11月16日に「佐賀県公安委員会指定・犯罪被害者等早期援助団体」に指定されました。被害者支援の重要性が叫ばれている昨今、さらにきめ細やかな被害者支援を充実させるとともに、被害者がアクセスしやすくするための県民への広報啓発活動を計画することが必要です。そのためには運営基盤が必要であり、支援自動販売機の設置推進や会員募集により、確固たる財政基盤を確立することが必要だといえます。

佐賀犯罪被害者・交通犯罪被害者遺族の会 自助グループ

「一歩の会」

一昨年の東日本大震災のあと、まるで地球が、人間の身勝手な行動に怒っているのではないかと感じるくらい、気候や自然の変化に現れているように思います。

新聞やテレビのニュースのたびにどうしてこのような犯罪が起きているのだろう。なぜ同じ人間がこんなむごいやり方で人の命を奪えるのだろうかと胸が痛みます。

十数年前、家族がそろっていた頃、同じ様に自然の変化や事件事故があったと思うのですが、当時は自分の生活の事がせいっぱいで、人の心の痛みや苦しみに気を留めておく余裕は今ほどまでにはなかったように思います。

息子の命がいきなり消え、地を這うような、息をするのも苦しかった時に、このまま世の中が終わって、私も消えて、息子の側へ逝けたらどんなに楽だろうかと思った時期がありました。

今、命奪われて涙するご遺族の姿をニュースで見るたびにこの方達も当時の私のようにもがいておられるのでは、と思います。

悲しみと向き合って静かに回復していくための場が近くにありますように、支援の手がより多くの方たちに届きますように。

息子に会えなくなった私が、こんな祈りができるようにずっと支援をいただいていることをありがたく思います。

一歩の会活動報告

12月

- 1、2日 犯罪被害者週間全国大会2012参加
- 6日 麓刑務所 講話
- 16日 佐賀夢チャレンジ メートプラザ参加
- 18日 朝日新聞取材

1月

- 12日 一歩の会 定例会
- 16日 共同通信社取材

2月

- 9日 入口さん事件 鳥栖駅ビラ配り
- 25日 平野隆史さん被害のひき逃げ事件の捜査に協力する会設立
山梨県韮崎署にて覚書の調印

3月

- 2日 一歩の会 定例会
- 12日 麓刑務所講話



Please open your heart.

<VOISS活動報告>

12月

- 3日 命の大切さを学ぶ教室打ち合わせ (有田工業高校)
支援自販機設置依頼
- 4日 命の大切さを学ぶ教室 (佐賀学園)
- 6日 全国共通DVホットライン
- 7日 サポーター養成講座 (11回) 閉講式
- 10日 命の大切さを学ぶ教室 (東与賀中)
- 11日 イオンイエローシートキャンペーン、広報活動
- 13日 フォーラム検討会、運営会議、支援自販機設置依頼
- 15日 スーパービジョン
- 16日 CSO 共感フェスタ、広報活動
- 19日 命の大切さを学ぶ教室 (有田工高)
- 20日 出前講座 (吉野ヶ里町) 打ち合わせ
全国共通DVホットライン、育児支援
- 27日 ケース検討会
- 29日 預保納付金説明会

1月

- 5日 運営会議
- 11日 第2回DV 関係機関実務者研修会
イエローシートキャンペーン
- 12日 一步の会
- 17日 全国共通DVホットライン
- 19日 スーパービジョン
- 22日 第2回佐賀県DV 総合対策会議
- 31日 全国共通DVホットライン
～2月1日 性犯罪被害者支援体制整備促進事業研修

2月

- 2日 運営会議
フレンドレイジング佐賀モデル構築事業研修会参加(9)
- 7日 全国共通DVホットライン
- 9日 広報活動 (鳥栖、県民と警察の集い)
入口さんチラシ配布
- 12日 佐賀市要保護児童対策地域協議会実務者会議
- 13日 VS 協議会 第19回カウンセリング研修会
- 15日 吉野ヶ里町出前講座 (吉野ヶ里中央公民館)
- 16日 スーパービジョン
- 18日 理事会
- 20日 命の大切さを学ぶ教室 (厳木高校)
- 21日 全国共通DVホットライン
- 28日 神奈川県立保健福祉大より支援体制の視察

3月

- 2日 運営会議、一步の会
- 4日 飲酒運転撲滅ステッカー贈与
(大庭さんから厳木中学校へ)
- 6日 性暴力被害者支援に付随する研修会
- 7日 全国共通DVホットライン
- 9日 スーパービジョン
- 9日～10日 九州・全国初ブロック研修 (長崎)
- 19日 第2回小城市要保護児童対策地域協議会実務者会議
- 21日 全国共通DVホットライン
- 22日 佐賀県DV 総合対策会議
子ども家庭支援員研修会

平成24年度VOISS会員入会お礼

(H24.12.1～H25.3.20迄に入会の方です)

○【正会員】(順不同)

岩永絹子、山口千恵子、柴田由希子、安西朋子、
内田克範

○【賛助会員】

筒井道隆



ご協力ありがとうございました

支援自販機設置企業等紹介

ご支援ありがとうございます

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1) 佐賀トヨペット (株) | 17) 石丸自動車 |
| 2) 佐賀女子短期大学 | 18) (医) 嬉野温泉病院新病棟 3 階 |
| 3) (有) 大町自動車学校 | 19) (医) 嬉野温泉病院新病棟 4 階 |
| 4) (株) 武雄自動車学校 | 20) (株) 佐電工 |
| 5) (有) 虹の松原自動車学校 | 21) (医) 永田天寿堂医院 |
| 6) (株) 唐津自動車学校 | 22) 佐賀競馬組合 |
| 7) 川久保自動車教習所 | 23) 養護老人ホーム松尾山大成園 |
| 8) (社) 建設業協会佐賀 | 24) 佐賀整肢学園こども発達医療センター |
| 9) 篠原宅 (鳥栖) | 25) 佐賀県警察本部 1F |
| 10) 弘学館中・高校学校 | 26) 唐津警察署 |
| 11) 東京海上日動ファシリティーズ (株)
九州支店 | 27) (株) SUMCO 九州事業所長浜工場 |
| 12) 三井住友海上火災保険 (株) 佐賀支店 | 28) (株) SUMCO 九州事業所佐賀工場 |
| 13) こが医療館クリニック | 29) 松尾中野建設特定建設工事共同企業体 2 台 |
| 14) 大坪石材 (株) | 30) 松尾・牟田特定建設工事共同企業体 他 |
| 15) 嘉瀬川リバーサイドゴルフ場 | |
| 16) ゆめタウン佐賀 | |
- 計 32 機 (順不同)

被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS 支援自販機
デザイン案 1



支援自販機 設置先募集！！

電話相談

TEL 0952-33-2110 月～金曜日 午前10時～午後17時
(土・日・祝日、12/28～1/3を除く)

メール相談

E-mail voiss@f3.dion.ne.jp

～ 会 員 募 集 ～

会員になって VOISS の活動を支えてください。また、寄付も随時受け付けています。

【年会費】 賛助会員 個人 1 口 2,000 円 団体 1 口 10,000 円

【郵便振替口座】 01740-7-8016

【発行】 特定非営利活動法人 被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS

代表 藤 林 武 史

〒849-0925 佐賀市八丁畷町 1-20

【事務局】 TEL/FAX (0952) 33-2130

E-mail voiss@f3.dion.ne.jp

ホームページ <http://www.f3.dion.ne.jp/~voiss>

